

平成11年11月

**全国7570店舗、2万4100人が参加
11月7日(日)に全国のセブン-イレブンで
一斉清掃活動を実施**

社名のセブン-イレブンに因んで7月11日と11月7日の年2回を『セブン-イレブンデー』として、フランチャイズチェーンとしては初の、全国のフランチャイズと本部が協力をして、一斉清掃活動に取り組みます。

株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、1991年に、社内関連各部責任者で構成される「環境対策プロジェクト」を、1993年には「セブン-イレブンみどりの募金」を発足させ、環境対策・社会貢献に取り組んでまいりました。

環境問題への関心が益々高まる中、店舗の近隣や道路脇などでも、お客様が買った商品のゴミやたばこの吸い殻等が、いたる所で捨てられているのを目にします。この様な問題に対し、加盟店オーナー・従業員、本部社員が協力をして、7月11日に引き続き、セブン-イレブンチェーンの環境対策・社会貢献の一環として、全国一斉清掃活動を行います。

前回の7月11日の一斉清掃では、加盟店オーナーからの提案・呼びかけをきっかけに、地域的には雨天の中、5055店舗、1万6647人の参加により実施し、約41トンのゴミを回収いたしました。

今回も、一斉の清掃活動を行うと同時に、私たち一人一人がゴミのポイ捨てをやめ、ゴミの持ち帰りを推進することをアピールしたいと考えます。

また、セブン-イレブン店舗では「ゴミの持ち帰り運動推進キャンペーン」を実施し、ゴミのポイ捨てをしない様、お客様への広報・PR活動を行い、美しい街づくり・地域づくりに協力していきます。

全国一斉清掃活動実施概要

- 1.日時 1999年11月7日(日曜日) 午後2時頃より1～2時間
※地域により時間が変更されている場合があります
※悪天候により、中止される場合もあります
- 2.清掃場所 セブン-イレブン店舗近隣道路・公園・駅等
※別紙各都道府県別主要清掃箇所一覧をご参照下さい
- 3.参加店舗 ●全国のセブン-イレブン約7570店
- 4.参加人員 (1)セブン-イレブンのオーナー、従業員 約2万2300人
(2)(株)セブン-イレブン・ジャパン社員 約1800人
合計約2万4100人

ゴミの持ち帰り推進キャンペーン

- 1.スローガン 「セブン-イレブン(は)ゴミの持ち帰り運動を推進しています」
- 2.内容 (1)店内BGMでスローガン放送(11月1日より実施)
(2)POSレジお客様画面でのスローガン表示(11月1日より実施)
(3)レジ袋でのスローガン表示(10月以降地区毎に随時実施)

以上

参考資料

セブン-イレブンの環境への取組み

99.10

1.セブン-イレブン・ジャパンの環境対策への取組み

セブン-イレブン・ジャパンでは、企業の基本的な責任として、環境に配慮した事業の取組みを推進する為に98年3月より「環境推進部」という専門部署を設置しています。そして、関係各部の責任者(約20名)からなる「環境対策プロジェクト」(91年1月設置)と連携を取りながら、全社的な社会環境活動を推進しています。

2. 具体的な環境対策

●リサイクル推進・環境配慮

項目	内容	導入時期
環境に配慮した商品の開発販売 (PB商品)	(1)「環境獎品」の開発・販売…品質、デザイン、使いやすさといった価値に、環境にもメリットがある商品。イトーヨーカ堂グループのオリジナルブランド。 《商品例》 ・トイレットペーパー 12ロール 398円 4ロール 178円 ・…回収された使用済み牛乳パックを4割使用した古紙100%使用の商品 ・紙コップ 10個入り 100円 30個入り 220円 ・紙皿 10枚 120円 ・…非木材パルプ(ケナフ)を原料として使用 ・ネットたわし 148円 ・…ネット部分にペットボトル再生原料70%使用。 ・シリコン すべり止め付グローブ 195円 滑り止め付き綿軍手 120円 ・…滑り止めに燃やしても有害ガスでないシリコンゴムを使用。 ・再生紙クラフトテープ 198円 ・…再生紙を40%以上使用 (2)焼却するときに塩素ガスが発生しないEVA素材でつくったビニール傘など *EVA=エチレンビニールアセテート 《商品例》 ・ビニール長傘(380円) ・EVAアンブレラ ハローキティ(580円) ・レインコート(380円) ・レインコート上着(600円) ・レインコートズボン(550円) (3)プラスチック工場に出る再生原料を40%使用、焼却しても有毒ガスがでないポリエチレン製の「のびる水きり袋20枚」 (4)資源の有効利用の為、建築の端材を使用した「割り箸20膳」 など	(1)98.7～ (2)96～ (3)98～ (4)97～
環境に配慮した商品の販売 (NB商品)	(1)水銀未使用の電池販売 (2)各種詰め替えタイプの洗剤(一部PBでも実施) (3)省電力化で省資源に対応した「省電球」 (4)フロンガス使用商品のLPGへの切り替え	(1)91.2～ (2)98～ (3)98～ (4)88～
環境を考えた資材・原料への見直し	(1)弁当、惣菜容器等について低公害素材へ変更(ポリプロピレン、A-PETなど) (2)弁当、惣菜等のラップを塩ビからポリエチレンに変更 (3)紳士靴下のフックに生分解性プラスチックを使用 (4)社員名刺を非木材(ケナフ)紙に変更 (5)POSレジシート・店舗紙袋の再生紙使用 (6)加盟店向け機関誌「セブンーイレブン・ファミリー」をはじめ会社案内など広報資料に原則再生紙使用	92～順次 91～(98.4で切替終了) 98～ 99.2～ 92.6～ 92.5～

省資源化	(1)紙 ・各店舗への本部発信情報(商品案内、発注台帳、お知らせなど)のデジタル化により、年間7300万枚のペーパーレス化 ・進物・宅配ギフト(お中元・お歳暮)商品の包装について簡易包装化を推進。 (2)箸・スプーン・フォーク ・弁当、調理麺、軽食に添付していたものをはずし、レジにて必要なお客様にだけお渡しするように変更。 (3)その他 ・ソックス・肌着・ハンカチなどのパッケージ省略	97.11～ 98.6～ 99.5～ 97～
リサイクル	(1)古紙 A.各加盟店で使用済みとなった書類(商品案内、帳票類など)の回収「処理文書回収システム」 B.本部ビル内での古紙回収 《A・Bの総回収実績》 93年度：858トン 94年度：957トン 95年度：1,010トン 96年度：1,242トン 97年度：1,489トン 98年度：1,444トン (2)ユニフォーム 本部社員の作業ジャンパーをマテリアルリサイクル	(1) ・毎日回収 91.3.15～ ・専用ボックス使用 91.8.1～ (2)90.7～
使用済みペットボトルの店頭回収	「東京ルール」施行に伴い、東京23区内加盟店店頭にペットボトル回収ボックスを設置	97.10～ ＊他に自治体ごと対応
エコ物流	各店舗の廃棄物の回収・処理一元化システム 本部が優良廃棄物処理業者を加盟店に対し斡旋し、各店舗から出る廃棄物を「可燃」、「不燃」、「有価物」に分け分別回収、処理するシステム 《現在実施エリア》 東京都、長野県、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、茨城県、群馬県、新潟県 ＊99年度中に全国展開予定	94.9～
生ごみのリサイクルシステムの構築に着手	《目指すリサイクルシステムの特徴》 (1)セブン-イレブン店舗及びベンダー各社の生ごみ飼料原料化 (2)リサイクル飼料原料を使用し安全な家畜の生産 (3)安全な家畜からの排泄物を有機肥料化し有機栽培による安全な農産物の生産 (4)セブン-イレブンの米飯・惣菜の商材として安全な畜産物、農産物を活用 第1段階として札幌市よりスタート、飼料＊原料化に関する評価研究を進めております。	98.4～

●配送効率化・大気保全

項目	内容	導入時期
地域集中出店・車両台数削減・交通渋滞の緩和	(1)高密度出店(ドミナント出店)方式により、車両の積載率アップ、配送時間や配送距離の短縮など、トータルな配送効率化を進めると共に、共同配送の促進により、創業当初、1日1店舗あたりの納品車両台数が70台あったのに対し、現在では10台までに減少し、排気ガスの排出量を削減 (2)検品スキャナー活用による事後検品システムを導入し、納品時間の大幅短縮	創業当時より段階的に実施 91.5～
環境配慮型車両の導入・開発	(1)新車への切替え基準(4年または30万kmの基準)の設定と、最新排出基準の適用車の導入 (2)新型車両の開発・導入 規定外フロンを使用した冷蔵・冷凍車 (3)CNG(圧縮天然ガス)使用配送車を導入 燃料充填スタンドに合わせ順次拡大	86～ 規定外フロン車 91.10～ 98.8～ ※99年5月末現在21台導入

●騒音対策

項目	内容	導入時期
騒音対策	(1)納品台車の改良 (2)納品時のエンジン停止(アイドリングストップ)の徹底 納品車両に「アイドリングストップ」ステッカーの貼付 (冷凍温度保持の為、フローゾン配送車を除く)	91.7～ 97.11～

●店舗

項目	内容	導入時期
建築	(1)天井内(屋根・天井)及び壁内(外壁ALC)の断熱 (2)フロントガラスに断熱フィルムを貼付 (3)店舗出入口のドアを自動より手動ドアに変更 (4)温度センサー取付けによる換気扇の自動制御	80～ 80～ 80～ 80～
照明	(1)店内照明を3ゾーンに分け、外部の光量に合わせて店内の光量を自動調節する「連続調光装置」を導入 (2)チルドケースの照明器具を省エネタイプに変更(インバータ式安定機) (3)店内蛍光灯を省エネタイプに変更(Hf型=高周波点灯型)	80～ 93～ 97～
看板	(1)看板の消し忘れ防止の為、タイマーを設置(自動的に設定時刻で点灯・消灯) (2)点灯看板に調光装置を設置(店頭看板の照明を80%調光で点灯)	80～ 80～
空調	(1)空調機の給気位置の変更による空調システムの効率化 (2)暖房の補助ヒーターを中止 (3)給排気方法の変更による空調の効率化	80～ 80～ 96～
販売ケース	(1)リーチインケース扉への露付きを防ぐ為、ヒーターを自動制御する装置の取り付け (2)リーチイン本体のケースパネルを組立様式から一体発砲方式へ変更することによる断熱の強化 (3)弁当ケースのコンプレッサーを省エネタイプに変更(ロータリー型)	79～ 82～ 85～

節電装置の導入	(1)店舗での使用電力の低減およびCO2排出量の削減を目的に節電装置を全店導入 (2)店舗における電灯用電力と動力用電力の省エネを図り、1990年対比で1店舗あたり使用電力量を約4%抑制、CO2排出量を約13%抑制	98.1～
---------	--	-------

●社会貢献

項目	内容	導入時期
セブン-イレブンみどりの基金	セブン-イレブン各店頭での募金と、本部からの拠出金運用益、また、前年度募金額30%分の本部寄付金をもとに「環境」をテーマに社会貢献に取り組むセブン-イレブン独自の基金 (創立20周年記念事業) 【活動の6つの柱】 1.自然環境の美化・保全活動 2.都市部の緑化・植花活動 3.青少年の環境教育・健全育成への支援活動 4.地域ボランティアへの支援活動 5.環境に関する啓蒙・広報活動 6.災害地復旧の為に義援活動	基金設立日 93.11.20 募金開始 94.2～ 事業開始 94.3～ *98年度実績 募金額 1億6万7934円 助成実績 1億376万1103円

●啓蒙活動

項目	内容	導入時期
環境作文コンテストへの協賛	読売新聞社主催「地球にやさしい作文・活動報告コンテスト」への協賛	91～(毎年実施) *98年度応募総数 2万6499件
スーパーバックのデザイン変更	スーパーバックへ、材質(ポリエチレン:燃焼時に有害ガス発生なし)及び、イトーヨーカ堂グループの環境対策シンボルマーク(あざらしマーク)の表示	91.8～
キャンペーンへの協賛	「富士山クリーン作戦'98」への協賛(96年度より) ◎富士山地域での一斉清掃キャンペーンへの協賛 ◎首都圏地区からの富士山地域清掃を目的とする富士山エコツアー＆クリーンコンサートを実施。本部社員もツアーに参加	96～
キャンペーンの実施	「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施 東京都生活文化局(グリーンコンシューマー東京ネット)のキャンペーンにともない、東京都の店舗で「環境にやさしい商品」普及のキャンペーンを実施	99.10月
商品展示会でのビデオ上映、パネル展示	年2回行われる商品展示会にて総合環境コーナーを設置し、本部・加盟店の環境対策活動をパネルで紹介。みどりの基金活動をビデオで報告。	91.秋～

●地域活動・その他

項目	内容	導入時期
加盟店での クリンネス 活動	(1)各店舗による店舗周辺の清掃 (2)自治体・町内会などの清掃活動・リサイクル活動への参加 (3)7月11日、11月7日を「セブン-イレブンデー」とし、加盟店オーナー、従業員、本部社員が全国一斉地域清掃活動と、ゴミの持ち帰りキャンペーンを実施	創業時から各店舗での対応 (3)99.7.11～ 参加実績 5,055店舗 参加者 1万6,647人 ゴミ回収量 13,751袋 (約41トン)
ゴミの分別回収	各加盟店の店頭に分別型ごみ箱(燃えるごみ用/燃えないごみ(ビン・缶)用の2台)を設置	92.3～